

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300313		
法人名	有限会社 パネス・コーポレーション		
事業所名	ゆかりの館		
所在地	福島県郡山市喜久田町字前北原53-5		
自己評価作成日	平成30年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成30年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の個性や心身の状況、生活環境を踏まえたサービスを自事業所のサービスのみにとらわれず提案、家庭的な雰囲気の中で、可能な限り自立した生活を支えられるよう、支援しています。事業所は住宅街にあり、内装や居室も一般住宅と同じに作られていて、利用者は自宅で過ごしているように生活している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者が最期まで自分らしく生活できるように、常に利用者が一番に考えて支援し、できる事は自分でしてもらい、大変になったらどう支援し取り組むかを常に考えて支援している。利用者の体力の維持に注意して、できるだけ散歩や買い物にでかけたり、階段の昇降のりハビリにも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者も現場に立ち、利用者の尊厳を守りながら、普通の暮らしを支えるという理念を共有し、日々意識しながら、日常のケアの実践につなげている。	利用者が自分らしく最期まで生きられるように、職員は理念を理解し常に利用者が一番にと考えて支援している。問題があれば、担当職員が中心になり話し合い、方法を考え実践して支援し、より良い支援となるよう意識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのスーパーへの買い物や散歩を通し近隣の方と言葉を交わしている。また、地元町内会に参加している。	日常的に近隣を散歩したり、買い物に出かけていて、地域の人に挨拶したり話したりしている。回覧版をまわしながら声掛けしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談を随時行いながら、適正と考えるサービス利用のアドバイスをを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の活動や行事案内をお知らせしている。また、防災・社労士などの専門の方に都度あるごとに参加していただき、アドバイスをいただいている。	利用者の家族にも参加してもらい行事や活動の報告を主に、防災や介護の専門職を依頼して、職員や家族の勉強会を兼ねて実施している。家族に事業所の支援方針や利用者の状態の理解を深める機会にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の方を通じ、行政との意見交換を行っている。また、行政が開催・案内する会議等には出席するよう努めています。	市の担当職員とは、メールでの通信が主になるので必ず確認して、返信したり会議や勉強会に出席している。認定更新時には、利用者の状態や支援状況を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部からの安全確保のための施錠はするが、一般的な玄関錠を使用しているため、自由に出て行ける環境になっており、見守りや同行することによって身体拘束をしない取り組みをしている。	職員は常に利用者が一番を考えて取り組み、不安があったり一人歩きする人には、原因を考えて対応を検討して支援している。常に利用者が気持ちよく生活できるように見守り、付き添い支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体ミーティングで高齢者虐待に関する理解と知識を深めるよう話し合いを持ち、スタッフ同士で防止に努めている。また、虐待防止のリーフレット等を活用し、虐待について学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者やその家族の意向を踏まえ相談、弁護士の紹介や対応を行っている。また、行政・利用者家族・事業所による話し合い等で支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書で十分に説明し、料金改定などの必要が生じたときには、事前に文書で説明・同意をもらう体制としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に担当者をつけ、担当者が窓口となり、利用者およびその家族の要望・意見をまとめ、全スタッフに日誌等を活用し申し送られる体制をとっている。	家族の訪問時、利用者の日頃の様子を伝えながら、気軽に何でも話してもらえるような雰囲気作りを心掛けている。細かく状態を把握している担当職員が、衣替えの時期等、その都度連絡し、身体状況に合わせた衣服をお願いしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者も一介護者として従事し、スタッフからの意見や提案を反映出来るようにしている。また、申し送りやミーティングにおいて検討している。	管理者・職員が一体となって日々の支援を行う中、気付きやアイデアも皆で話し合い、試しながら柔軟に対応し、働きやすい環境作りを心掛けている。職員間の連携も良く、勤続年数も長くなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの力量に応じた研修や仕事の役割を決め、スキルアップを図り、個々の意識を高めている。また、スタッフの家庭環境などを踏まえ、労働シフトを決めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの力量に応じた研修の参加を行っている。また、資格取得を希望するスタッフには、シフト調整等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修への出席により、同業者との交流や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査において利用者とその家族から聞き取りを行う。生活環境や生き立ち等の話題も交えながら、安心できる環境を検討し、支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の状態を含め、家族の要望に耳を傾け、協力し合える関係が作られるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向を確認し、必要なサービスを見極め、他のサービスの活用を含め適切なサービス提供ができるよう提案を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存能力を見極め、十分活用していただけるよう、個々に合わせた仕事を行ってもらうよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の支援なしに介護は成立しないことを説明、理解してもらい、定期受診など、積極的な支援をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会、連絡等の支援を行い、馴染みの場所へ行けるよう機会を設けている。	家族の訪問が多く、一緒にドライブや外食を楽しんだり、墓参りに行く等、継続的な交流ができています。近くの商店に買い物に行ったり、お茶を飲みに行く等、慣れ親しんでいる事業所周辺が馴染みの場所になっており、穏やかな生活の拠点になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、助け合ったり協力し合えるような関係を作ることができるように、リビングでの席の配置を検討する等の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所してからも、入院中の方をお見舞いしたり、関係が途切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に担当者をつけ、話を聞くようにし、日々の申し送り時に情報の共有と支援方法を検討している。	担当職員の丁寧な見守りで日頃の様子を把握し全職員が共有している。落ち着かない時は、傍に寄り添い一緒に散歩したり、家族に電話を掛け声を聞かせてやる等、状況に応じて対応し、穏やかな日常生活が送れる様支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査時、本人、家族からサービス利用の経過等を詳しく聞き取っている。また、前サービス事業者より介護サマリー等の情報提供をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の行動・言動・心身状態を観察、記録し把握に努めている。また申し送りやミーティング等で、カンファレンスを行い、スタッフ間の情報の共有化を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフミーティングを行い、介護計画の見直しを行っている。また、必要に応じ、かかりつけ医や家族とも相談し随時見直しを図っている。	担当職員を中心に、全職員で意見交換を行いながら、体力の維持を図り、少しでも長く自立した生活を送れる様な計画作りを行っている。状況の変化に応じその都度見直し、適切なケアに繋いでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・水分・バイタル・排泄・入浴の記録はもとより、問題点や気づき、利用者本人の様子をSOAP形式等での記録を行い、情報の共有化や介護計画へ生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じ、様々な角度から支援を都度考慮している。また、自事業所のサービスにとらわれず、他の介護サービス・医療サービスの紹介や手続き等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員を受け入れ、訪問マッサージ・宅配等、本人の希望に添える支援・対応に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望に合わせた医療機関に受診することを基本とし、出来る限りスタッフも同行し医療機関との関係を築いている。また、提携医療機関からの訪問診療や往診を取り混ぜながら対応している。	職員は受診時の家族を支援して通院に付き添い、主治医に利用者の状態の報告をし、受診後の支援についての指示を受けて毎日の支援に反映させている。家族が利用者の状態をきちんと理解できるように伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは日常の中で気になる情報や気づきを即座に看護職に報告、相談を行っている。また、訪問診療の際など、医師への相談も行いながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と病状等の情報交換を行い、退院後の注意点、リハビリ計画等、適切な医療を受けられるよう相談・連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業者で対応できる範囲について説明を行い、重度化した場合の対応について、書面にて同意をいただいている。	利用者や家族の希望を機会あるごとに確認している。利用者の状態を家族にきちんと見てもらい、重度化した場合にも家族が落ち着いて考えられるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は即看護職に連絡し救急通報をするよう通達している。また、救急車をスムーズに呼ぶことが出来るよう、火災通報訓練時に確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、様々な災害想定について話し合い反省点を改善している。また、近隣住民に対し、認知症介護事業所であることを周知し、緊急時の協力をお願いしている。	消防、防災機器の点検の時には全職員が操作できるように、必ず実際に動かし訓練している。停電後の機器の回復操作も繰り返し訓練している。食料品の備蓄は多量にあり、定期的に点検し交換補充している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬意を持って、尊厳を守るサービスを心がけている。利用者ごとの性格、性質を踏まえたうえで声掛けをするよう努めている。	各居室にトイレと洗面台が備えてあり、利用者が各自で利用している。職員は利用者の様子や行動を観察して時間や行動前に声掛け誘導している。利用者は自室の暖簾を選んだりして自分らしく生活している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に応じて分かりやすく声掛けしたり、自己決定できるように選択肢を提案したり、利用者の意向に沿うよう、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく生活が送られるよう、利用者の都合・立場にどれだけ添うことが出来るかを考え、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を染める女性は月に1回程度は美容院に行けるよう、利用者・家族と相談しながら支援を行っている。利用者と共に洋服を買いに出かけたり、季節に合った衣類を家族に持って来て頂くよう手配する等、支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を把握し、食材の買い出し、食事の準備や片づけも、利用者と一緒にしている。また、外食等も取り入れながら、楽しむことができるよう支援している。	オープンキッチンで職員が調理していて利用者は香りや音で食事を楽しみに待っている。食器を多種、多量に揃えていて、季節や料理に合わせて選び盛り付け、楽しんでいる。天気の良い日には、ベランダでおにぎりの昼食にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・体重を記録し、健康管理に生かしています。また、利用者それぞれが嗜好する飲料を取り入れるなどし、水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄や歯磨き等の支援を行い、必要に応じ介助を行っている。定期的に歯科医の訪問を受け、義歯調整や口腔ケアのアドバイスをもらい実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握するよう努め、声掛けやしぐさから排泄のサインを読みとり、できる力を生かした支援を行っています。	チェック表と丁寧な見守りにより個々の排泄パターンを把握し、何気ない声掛け・誘導でトイレで排泄できる様支援している。利用者は全員自室のトイレを使用し、周りを気にする事無く、羞恥心や不安の軽減に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状況を把握し、食事のバランスや水分量を考え、適度な運動にも配慮している。また、医師への相談も適時行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調・希望に合わせて入浴やシャワー浴、清拭を取り混ぜ、その方のタイミングや声掛けを工夫している。	無理強いせず、利用者が納得し、安心して入浴を楽しめる様支援している。肌の乾燥を防ぐ為、石鹸の使用回数を減らしたり、状態によってシャワー浴に変更する等、一人ひとりの様子を見ながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を踏まえ、適度に居室で休息してもらっている。就寝・起床時間は個人の自由を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬局に依頼し、服薬のタイミング別に一包化、利用者名・服薬日時・薬剤名を印字してもらっている。誤薬が起きないように、仕切りの付いたケースに服薬日時ごとに分け、3重チェックをするようにしている。また、薬剤を準備する際、薬の説明書と照らし合わせ効果・副作用等の確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族から趣味や好きなことを聞き、出来ることは率先して行えるよう支援している。嗜好品を楽しんでもらえる場も設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の生活の中で散歩や外出支援を積極的に行い、利用者の希望を家族に伝え外出できるよう支援を行っている。また、初詣や桜祭りなどの行事を通して、外出の機会を設けている。	日常的に事業所近くのスーパーやコンビニへ出かけ、買い物やお茶を楽しんでいる。庭でバーベキューをしたり、自分達でおにぎりやおかずを作り、近くの公園で花見を楽しんだり積極的に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人の力量に応じた金銭管理を行ってもらい、利用者自身で買い物をできるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所の電話から家族や友人に連絡をとれるよう支援している。また、知人への手紙等は、ご家族を通して、やり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は空調を適切に管理し、インテリアは季節によって変え、楽しんで頂いている。キッチンも開放的で会話を楽しみながら行えるよう工夫している。	脱衣所の室温を高く設定する等、温・湿度の管理に細かく気を配り、過度な飾り付けはせず、一般の家庭と同じような雰囲気作りをしている。コタツに入って新聞を読んだり、料理を手伝ったり、洗濯物を畳んだりと思い思いに日中を過ごす場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室・ソファ・テーブルをワンフロアながら適度に配置し、リビングテーブル配置も気の合った入居者同士が会話を楽しめるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	入居の際、本人が使用していた思い入れのある物を中心にそろえて頂き、居心地良く過ごせるよう配置している。また雑然としないよう、また季節ごとに快適に楽しめるよう飾り付け等で変化を持たせています。	各居室の入り口には自分好みの暖簾が下がり、目印にもなり、間違いの予防にも繋がっている。トイレ・洗面台・クローゼットを備えた部屋は、整理整頓がなされ、鏡台やギター、フィットネスバイク等、思い思いの品が持ち込まれ、その人らしい部屋作りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下等や浴室には手すりが設置しており、安全で自立した生活を送れるよう努めています。入浴の際には滑り止めマット等を使用しています。また、身体能力に応じ、起床センサーをつけるなど、安全確保に努めています。		